
猫日記 = 姉妹との滅茶苦茶日常 =

咲良@葉花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

猫日記Ⅱ 姉妹との滅茶苦茶日常Ⅱ

【Nコード】

N6841T

【作者名】

咲良@葉花

【あらすじ】

ある屋敷に住む一匹の猫は今日も憂鬱だった。

はちやめちゃんな姉妹猫&親猫と、

四女の猫の話。ぶっちゃんけ実話を含む猫の擬人化ストーリー。

憂鬱の子猫（前書き）

どうも。ファンフィクションの書いていたら、こういうのが書きたくなり。

今に至ります。注意！またまた擬人化です（笑）
目を通してくださると嬉しいです。では、始めます。

憂鬱の子猫

[illegible]

○月×日 朝

今日もキンの叫び声で目が覚めた。

ボクはこの屋敷の四女のク口。

猫と言う割には、ボクたちは人間の形をしている。

それには色々理由があるんだけど……。

話してる長いし、いいや。

それは今度改めて説明するお。

それより…朝食の時間だ。

[illegible]

ク
口
「
ふ
う
…
。」
」

この猫はクロ。さっきの日記の通り、屋敷の猫の四女。

クロ「朝食だ…、もう皆いるんだろぅな…。」

ぶつぶつ言いながら、廊下を歩く。ガチャ、食堂のドアを開けた。

そのとき、物語が始まる。

チヨコチップ「うおらああ!!!」ベチャ。

クロの頭にフレンチトーストが激突する。

フジ「朝から服を汚さないでくださいよ!」

切れ気味のフジ。

「チヨコチップ、気張ってんじゃねーYO! 音痴が。」

フジ「何ですってええええ！！！」

追いかけてこが始まる。それを見ていた一人が声をかける。

キン「おうおう！朝から何やってるんだよ！」

ギン「ん、珍しくキンがとめるあるか？」

キン「俺も混ぜるよ〜〜〜〜！！！」走っていこうとする。キン
ギン「やめろあるう〜〜〜！只でさえ手が付けられねえのに
もつと深刻化させるんじゃないやねえあるよ！！！」

必死にキンを抑えているギン。

クロ「…今日もいつもと変わらないなあ…。」

*「あんたら朝っぱらから何やってんのよ。」

誰かの声がする。

一旦その場の時間が止まる。

取っ組み合いのチヨコチップとフジ、キン、ギン、クロ。

全「ミルク！」親猫、ミルク。

ミルク「全くこんなだからいふふあふえふお…。」

チヨコチップ「食いながら話すんじゃないねーーーー！」

チヨコチップのとび蹴りが炸裂。

思わず耳を塞ぎなくなる爆音。ミルクのプチッという堪忍袋の音

ミルク「初登場だからかつこつけようと思ったのになんなのよ

アンタはーーーーーっ！！！」

結局、ご飯は頭に引っ付いたフレンチトーストをはがしながら、
物が飛び交う中、ジャムをトーストにつけて食べた。

スカボカ。という擬音語が似合うほどの喧嘩をしている姉妹

…と親に向かい、

クロ「…学校、遅れるよ。行ってきます。」

と言に残し、家をでた。

空は青くて、まるで、ボクたちを飲み込んでしまっんじゃないか、
と言っほど綺麗だった。

あとで、どつつきあいをしながら向かってくる姉妹、親と合流して学校へと向かった。

チヨコチップ「石ぶつけるんじゃないやねえんだYO!」
ミルク「へん!」フジ「タンコブと絆創膏、お似合いですよw」
チヨコチップ「お・前・も・な」

今日も、ボクの日が始まる。

クロたちが通う学校は、結構お嬢様の通う私立だ。
なぜ、そんな学校にあんなのが通えるかと言うと。

あの猫たちは、相当の金持ちだから。簡単すぎる理由。

なんでもチヨコチップは学校一の不良として名を知らしめている。
生徒会長、ミルク。裏生徒会長、フジ。

常に対立している。

体育委員会委員長、ギン。保険委員会委員長、ギン。

この二匹は双子のようにそっくりだが、性格が正反対。
たまに入れ替わっている。

図書委員会委員長、クロ。おとなしい、が、怒ると屋敷で喧嘩
トップのミルクと互角にやりあうほどになる。

裏生徒会支援部隊会長、シロ。

可愛そうなほどにフジにいじられている。この役も、本人は
望んでいないらしい。

日直「きりーっ、ちゅーもーく、れーい。」

全「おはようございまーす。」

一話終了。

憂鬱の子猫（後書き）

キャラ紹介…したほうがいいでしょうか（笑）

まあ、機会があれば絵でも載せようと思います。

学園は初挑戦です。で・す・が。

途中から厨二&ファンタジーに変わります。wでは。

キャラクター紹介！（前書き）

文字通りです。

キャラクター紹介！

馬鹿3

クロ…
・喧嘩の強さ…七匹中六位（しかし、キレると一位と互角）
・性格…気が弱い。七匹の中で身体が小さい。しかし、髪が自慢らしい。

機械に強い。七匹の中では、正常なほう。

・その他…一応主人公。語尾「～だよ。」「～だお。」「

四女

ミルク…
・喧嘩の強さ…七匹中一位

・性格…食い意地が張っている。大好物は海苔。唯一の金髪。

・その他…一応六匹の親猫 語尾「～よ。」「～だわ。」「親猫

チョコチップ…
・喧嘩の強さ…七匹中三位

・性格…屁理屈と下品な言葉ばかりを発する。

しかし、格好さえかえればかなりの美人。

一番喧嘩の原因。

・その他…語尾「～なんだYO!」「～んだYO!」「五女（末っ子）

まとめり0

フジ… ・喧嘩の強さ…七匹中二位

・性格…意地くそ悪い姉さんキャラ。シン。レラで言う意地悪な継母

馬鹿3のミルクとチョコチップに常に敵対している。

・その他…音痴 語尾「〜です。」「〜ます。」 長女

キン… ・喧嘩の強さ…七匹中四位

・性格…アツイ。むさ苦しい。しかし根はいい奴（皆もだが。）

キンとギンは良く似ていて、たまに入れ替わっている。

・その他…趣味、キントレ 語尾「〜だぜ！」 次女？

ギン… ・喧嘩の強さ…七匹中五位

・性格…苦労性。クロやシロをいつも守っている。本当のおねえさん。

みたいな性格。面倒見はいい。

・その他…過去に隣国旅行で色々あり、語尾「〜ある。」「〜あるよ」 三女？

シロ ・喧嘩の強さ…七匹中七位？

・性格…いつもおどおど。フジにいつもいじられている。・その他…語尾「〜ですう」「〜ますう」 ???

いつも喧嘩している奴ら

・チョコチップ ・キン ・フジ ・ミルク

苦労している奴ら

・クロ ・ギン ・シロ

まとめ。

なんだかんだで皆団結してるし仲はいいです。
仲がいいほど喧嘩する…って言いますし。

キャラクター紹介！（後書き）

キャラ（重要）は以上です。

多分そのうち絵はあげます。

次回から多分本編に戻ります。では！

学校生活（前書き）

学校での書いてただけですw
では始まります。

学校生活

一時間目、数学。

先生「……で、ここは、こうで……。」

クロ「……はあ。」空を見る。相変わらずに綺麗過ぎて、ボクには到底手が届かない。

いつか……あの空に行ってみたいなあ……。
などと、ぼーっとするクロ。

……すると、

先生「ん……じゃあ天坂、この問題を解いてみる。」

（本当は猫なので、偽名を使っています。苗字は天坂です。）

クロ「あ、はい！ $3\sqrt{2}$ です。」先生「よく出来たな。その通りだ。」

クロはこの学校でもトップクラスの秀才。

実を言うと、屋敷の猫たちは皆ずば抜けて頭がいい。
その中でも一番なのが、クロである。喧嘩は弱いが。

クロの偽名は アマサカ 天坂 ヤツキ 夜月

隣のクラスから、ものすごい物音がする。また、チョコチップがやらかしたのだろう。

チョコチップの偽名は アマサカ 天坂 チヨコ 茅代子

そして、

先生「また天坂が……。」先生「そうか……、お前ら、今のところの問

題を問いてる。」

生徒「はい。」 クロ「先生。ボクの姉がまた何かやらかしましたか。」

先生「ああ。なんせまた天坂が天坂とつくみあいになってるらしいからな。」

フジの偽名は 天坂 風実 《アマサカ フミ》 チョコチップと同じクラスだ。

なんだかんだで、授業は終わる。

生徒1「夜月いー！またお姉ちゃんたち喧嘩してたの？」

クロ「うん。そっらしいよ。」生徒2「よく無事だねw」

ほかの子との会話。実際は読書の方が好き。

ボクは一人が好きだ。あまり人との対話は得意ではない。

…ぶっちゃけ、姉妹や親は別だが。

ミルク「ちよつと夜月！来なさい！」怪我でもあったのだろうか。

クロ「う、うん。」

ミルクの偽名は 天坂 実紅 アマサカ ミク

保健室。他の兄弟もそろっていた。

キン「喧嘩にしては派手だったなあ。音も酷かったし。」

偽名 天坂 来夏 アマサカ ライカ

ギン「なんか嫌な予感ある…。」

偽名 天坂 未冬 アマサカ ミフユ

シロ「殴り合いですかあ？」

偽名 アマサカ 天坂 マコト 真琴

保険の先生「今回も派手にやっちゃったみたいで。」
ミルク「すいませんねエ。後でよく言っておくわ。」

保険の先生「違うわよ。喧嘩したのは風実と茅代子じゃなくて、
クロ「え？先生が風実と茅代子って…。」

保険の先生「ああ、あれは違うのよ。茅代子が生徒と喧嘩になって
とめに入った風実が…。」
巻き込まれてまた生徒が…。」

ギン「厄介すぎるある。」キン「楽しそうだなそれ。」

保険の先生「…で、貴方たち、どういう生活してるの？こんな不良
と優等生の差が
激しすぎる一家初めてよ。」

キン「いいじゃねえかせんせい！細けえこたあ気にしねえでよ！」
ギン「何言ってるあるかおめえは！」

保険の先生「まあ、別にいいけど喧嘩の早さ、なんとかしてよね。」

クロ「はい。」

なんだかんだいって、もう放課後。

クロは部活には入っていないので、さつさと家に帰る。

家来「お帰りなさいませ。クロ様。」家来達が出迎える。

クロ「ただいま。」といいながら、自室にこもり、PCをいじる。
退屈そうな目が、モニター越しに、物語を見る。

クロ「神……かあ……。」興味はある。でも、なれるわけが無いのは知
っている。

カチカチ。時計の針が時を刻む。

掲示板に書き込んだり、音楽を聴いたり。

ふと、こんな言葉が書いてあった。

名無し

この世界には神の子孫がいるらしいよwしかも人間。

名無し

厨二乙www

名無し

でも神も人間……っていうのは分かるかもなあ。

名無し

もしかしたらお前らの隣の人神かもよw

名無し

本当だ！！神がいた！

名無し

まじかよw

………などという書きこみ達。カタカタと、自分も書き込んでみる。

名無し

神かぁ。子供の頃はあこがれてたな。無理だろうけど。

書き込んだ後、夕食へと向かった。

二話終了

学校生活（後書き）

ちよつとギャグはあまり入らなかったですね W
では。

突然の転校生（前書き）

どうもです！

まあ、転校生です。いきなりですが、

ここからもう物語りはガラリと変わるかもです。では

突然の転校生

キーンコーンカーンコーン…

次の日、朝の会。

先生「今日は、転校生を紹介するぞ。」

わっと、教室がすこし騒がしくなる。カラカラ…と転校生が入る。

ミーア「咲坂ミーアです。よろしくお願いします。」

普通にハーフのような少女だ。

先生「ミーアは…えっと、天坂の隣だ。」

ミーアと呼ばれた少女が来る。とりあえず挨拶くらいはしたほうが
いいと想い。

クロ「…えと、咲坂さん宜しく。天坂夜月だよ。」

ミーア「よろしく。『クロ』さん。」！？と、クロの頭に文字が浮
かぶがごとく、

驚く。その筈、家来や、家族以外は知らない筈だから。

クロ「え…？あ…。」

ミーア「驚いちゃった？ごめんね？私ミルクのお友達なの。」

ニコリ、と笑うそのとき、この子も猫なのか…と分かった。

笑った口から顔をのぞかせる八重歯の独特な形。

クロ「…君も、猫？」 ミーア「モチロン。」歌うような口調で言
う。

キーンコーンカーンコーン。チャイムがなり、休み時間。

ミーア「ねえ、夜月ちゃん、実紅ちゃんのクラス教えてくれない？」
クロ「ん？いいよ。」

カラカラ…ミルクの居るクラス。

ミルク「ミーア！アンタ本当に来たの！？」

ミーア「ええm…実紅ちゃんに会いたくてえ〜！！」いきなり目の前で抱擁をする二人。

ミルク「…で、なんで来たの？」ミーア「う〜ん…あとで話す。」

ミーア「あ、あと暫く泊めて」ミルク「あんた…分かったわ。部屋結構空いてるし。」

学校終了後、ミーア、という少女は屋敷に泊ることになった。
猫での名前はミュウらしい。

夕食後、珍しくクロたちに早く寝ろと促した。なにやら、ミュウと話があるらしい。

夜もふけた、娘達は全て寝静まった。

ミルク「…で、何の用よ、第六大臣家、スカリームセム家党首アムレイサム。」

ミーア「ええ、実は、第一レミーゼ家アミールフェル家当主、ミカレイジェル様に報告で。」

ミルク「どういう。私神になるなら死ぬって言った筈よ。まさかレミーゼ戦争でも？」

ミーア「ええ。流石当主様。勘が鋭い、神の意思で、本日からレミ

「ゼ戦争が始まりました。」

ミルク「…娘達は巻き込まないでしょうね。」これほどに無いほどのミルクのまじめな表情。

くすくす、と笑いながらミーアは答える。

ミーア「さあ。あの子達の意味によります。」ミルク「…アンタは？」

ミーア「勿論、アミーゼルフエル家の見方です。」

……ドアの外では、盗み聞きしていたチヨコチップが困惑の表情を浮かべていた。

チヨコチップ「（…アミーゼルフエル？戦争？何厨二なことを話してるのか？小説の話か？）」

夜はふけ、やがて、あけてゆく。

だんだんと青くなる空に照らされ、また、今日も始まる。

突然の転校生（後書き）

こんにちは。いきなり厨二展開。

あ、ここらでワケわかめでも説明はそのうち本編か説明で入るので大丈夫ですよ！では！

紛争。物語の始まりへターニングポイント」(前書き)

どうもです。

多分ここあたりからもう楽しいギャグな毎日

終わりを告げると思いますが。まあ、シリアスシーンでも

壊す奴がいるので安心を。

変わらない低クオリティでお送りしますでは。

紛争。物語の始まりへターニングポイント

ドンドン。と、早朝からドアをたたく音が聞こえる。

クロ「んう…？なんだろ…誰？」

チヨコチップ「ぼうなんだYOい！開けろ！」

仕方ないなあ…とドアを開ける。そこには少し深刻な顔をしたチヨコチップが。

クロ「…プー？どうしたの？」

チヨコチップ「お母にゃんが朝食作るって言いだして…。」

クロ「え…。」一気にクロの顔が青ざめる。

チヨコチップ「頑張って今ギンとフジとキンがとめてるんだYOい！オマエも来い！」

クロ「う、うん！お母にゃんがご飯作ると大変だからね！」

ミルクは料理ヘタではない。しかし、料理は美味いが、何が入っているかは不明だからだ。

この前なんかは、コードネームGを食事に出され、気づかずに食べ、何が入っている？と聞き、ごきり…コードネームGと言われ、すごいことになったらしい。

一方、厨房では…

フジ「朝食位私で作りますってば！」

ミルク「あんでよ！文句あんの！？」キン「ありあだもごもご…。」

ギン「何もいつてねえあるよ！」ギンはキンの口ををさえながら、

弁護する。

バターン、そんな音を立てながら、厨房へ入るクロとチョコチップ。

チョコチップ「…で、朝食はなにを作るつもりだ。」

ミルク「カレーよ。」クロ「…スパイスは？」

ミルク「あら、そんなん自己調達してきたわ…なんたらに…うんとかに…しめにウコン！」

チョコチップ「それ「自主規制」じゃねえかYO~~~~!!!!」
見事、とび蹴りがミルクのみぞおちにHIT。

ミルク「がふッ…これが「自主規制」ですって！？どうりで公園に落ちてて不自然だと思っただわ…。」

クロ「いい加減ウコンと「自主規制」の区別くらいつけてよね…。」
ミルク「これは？」フジ「それはマンドラゴラ。てか、そんなもの現実にあっただんですか!？」

家来「朝食は私どもが腕によりをかけて作りますので、どうかリビングへ…ミリア様が起きましたよ。」

ミルク「あら、うん…じゃあ朝食頼むわね。」

ミルク以外「ホッ…。」
朝食、わいわいと食べた、しかし、そのムードはあるニュースにより壊された。

ニュースの人「次のニュースです…。○×国にて勃発した紛争が周
りの国を巻き込み、
巨大化し、戦争となってきました。この国もいずれ巻き込まれる
のでしょうか…。」

ミルク「…！！！」クロ「戦争…かあ…。」

全員は気づいてなかった。
ミルクの深刻な顔を。

紛争。物語の始まりへターニングポイントへ（後書き）

あああ。来ました。戦争ネタ。

ここから發展します。もしかしたら、レミゼ云々が関ってるかも
です。ね。では。

狂ってゆく…？

クロ「…紛争…。」

キン「戦争って楽しいのか？」フジ「逝ってくればいいんじゃない？」

キン「なんか漢字がちげえぞ…。」

なんて、こんなニユースでもこんな会話な姉妹達。

ミルク「あんたら…、もし紛争に関んなきゃいけないっていったら、どうするのよ。」

ギン「嫌ある。断るあるよ。」即答。

クロ「ボクも。」フジ「私もですね。」シロ「私もですう。」

まともな答え。コレが普通の考えだが…。

チヨコチップ「ぼうは…別にいいんじゃないの？」

キン「ああ。オレもそう思うぜ？」

ミルク「あんでよ。」

チヨコチップ「だって…、そういう“運命”なら仕方ないじゃないかYO。」

キン「オレは只単に守りたいものがあれば参加してもいいんじゃないか？みたいな。」

少し、全員は意外そうな顔をした。

いや、ものすごく戸惑った。普段なら、

キン&チヨコチップ「だって、楽しそうじゃないか（YO！）」
とか言いかねないからだ。

ミルク「（コイツらもう餓鬼じゃないのね…。）」

クロ「意外だね。天下の暴れん坊さんがそんなこと言うなんて。そんなことをいた瞬間、チョコチップがクロに襲い掛かった。」

ぐだぐだした娘達をすこし、やさしげな、淋しげな目で見るミルク。
ミーア「…でも教えるのはまだ早いよ」

と、何時の間に隣にいるミーア。

ミルク「あ、はよ。」ミーア「おっはよ ミルク。」

少し、おもしろい空気の日が始まった。

此処で説明 ネットばれ有り。

まず、意味不明なミルクたちの本名からいきましょう。

ミルク…ミカレイジェル・アミーゼルフエル

フジ…フレウディリ・アミーゼルフエル

チョコチップ…チーゼツツフィ・アミーゼルフエル

クロ…クラウディンス・アミーゼルフエル

キン…キスインスリーデ・アミーゼルフエル

ギン…ギスインスリーデ・アミーゼルフエル

以上、アミーゼルフエル家。

次に、色々と。

レミーゼ…作者の勝手な妄想内での神、というわけ。

レミーゼ候補家…次のレミーゼになる人の候補達。(七つ)

大臣家…レミーゼの手伝いを代々やっている家(九つ)

順々に言ってきます。数字が小さいほど、権力が高い。

レミーゼ候補家

第一権力者

1 アミーゼルフェル家 ミカエレイジェル

2 ホワイティウンス家 ジェルカミアウ

3 カリサアス家 (ルウリウン)

4 ブレガトレース家 (ブレウカース)

5 アムゼルハン家 (サレンとカレン)

6 カンフレイシー家 (フイーユアンヌ)

7 シュシアドレード家 シューカーインアル

以上です。

大臣家

第一権力者

1 アバラスケルス家 (カースヴィ)

2 ロザリーヌ家 (レオネータ)

3 サブウェイド家 (ルーネイラズ)

4 シュイナス家 (ガシユータ)

5 トウライカルス家 (トウームレイム)

6 スカリーアムセム家 アムレイサル

7 カラトリアスウェイブ家 シエルシアスジェア

8 パスカリーヴ家 （パフューレーン）

9 ヴァリアンスレド家 カドーリンス

以上です。

レミーゼ戦争について…レミーゼ（神）継続のための戦争（？）です。

候補家が争って、勝った家のトップの人が
レミーゼになれる。レミーゼ（神）
の意志でそれは開かれます。

ちなみに…

シロ…カラトリスウェイブ家第一権力者。

ミーア…スカリアムセム家第一権力者。

…で、権力が高いの意味…。

レミーゼ戦争で、他の家の人たちが残っていても、第一候補家の
誰かしら残っていれば、その人がレミーゼになれる。

…くらいですね。

此処で色々

キャラクターデザインをやりたいと思うのですが、

> i 2 6 0 4 8 — 3 2 1 6 <

どうしよう…、挿絵が表示されるかが、とっても心配です。
なんせはじめてですから…。

説明していきます…。

一番ちびな子から言ってきます。

・シロ、フジ、チョコチップ、クロ、ミルク、キン、ギン。

以上です。

…ええっと、アミールフェル+???なのは、
シロが養子で、他の家の子だからです…。

制服は書いてあるとおりです。でも、クロは上着(?)はあまり着
ません。

ああ…ちゃんと挿絵表示されてますでしょうか…。

では、次回で。

休日、カオスな日（前書き）

ここで少しシリアスから逃げます（笑）

チョコチップ「ほら！この卵新鮮じゃねえんだYO！！」

ミルク「んな事どうだっていいでしょうが！！」

フジ「私のエッグベークンどこですか！？」

キン「オレの朝食まだかよー！！」

ギン「お前らもう少し静かにしろある。」

クロ「はあ…。」

…と、休日までこんな朝が続く。

ミルク「はいはいはーいーい！喧嘩そこまで！」

全「しーん…。」

ミルク「DE、今日、何処行く？」

チョコチップ「はいはーいーい！」

ミルク「はい、プー。」

チョコチップ「トイレ行ってくるんだYO。」

ミルク「あっちよ、てかい加減覚えなさいよw」

フジ「はいはいーい！」

ミルク「フジ！」

フジ「富士 s ミルク」却下。」

ギン「無難に遊園地がいいある。」

ミルク「あ、そうね。」

チョコチップ「ふいーいーすつきりした、で、決まった？」

ミルク「遊園地でいいわね？」

全「了かーいーい！」

休日はいつもこんな感じ。

皆でどっかしらに遊びに行く。

ある遊園地……

チョコチップ「なあなあ、お母にゃん。」

ミルク「あによ。」

チョコチップ「無料で入れたけど、なんでなんだYOい？」

ミルク「ああ、あたしの会社の支配下だから。」

チョコチップ「あ、そ。」

結構な資産家なので、このくらい普通のことだ。

キン「おうおう！あのジェットコースター楽しそうじゃねえかい！」
ギン「私はお化け屋敷のほうが好きそうだと……。」

フジ「私絶叫系むりなんで。」

青い顔でフジが答える。

クロ「珍しい、コーヒークップだあ……。」

と、クロが指をさした。

ミルク「あら、久々ね。」

チョコチップ「そうDAな……。」

フジ「あれに乗りましょう。」

最初の内は、楽しんでいた。
しかし……。

キン「おうらああ！」

ギン「目え回るからやめるあるうう！」

フジ「うつぶ、やめてください……。」

シロ「（気絶）」

四人三人でカップを分けたところ、問題児をまとめることを忘れていた。

問題児、チヨコチップ、キンはうまい具合に両方のカップに片方がのっていた。

…いや、ミルクもか。

クロ「やめてええええええええええ!!！」

チヨコチップ「もう一ちよいくんだYO!」

ミルク「ああっはっはっは！！」

ほとんど、楽しんだ、よりは振り回されたに近い。

へつとへつになって、最後の観覧車。

フジ「…さっきのジェットコースターはきましたね。」

ものすごく青い顔をしているフジ。

クロ「やっとまもなのが来た……」

乗り込んで、カラカラと動いていく観覧車。

今回は、きっちり問題児と正常な人を分けた。

だんだんと上がってゆく観覧車。

ク口「わあ……。」

フジ「きれいですねえ。」

シロ「……だんだん、早くなつてませんかあ？」

言われてみればそうだ。

フジ「うっ……気持ち悪くなってきた。」

クロ「うっわあ……あれ！？開かない！！」

シロ「……明らかに、ミルクさん達ですよねぇ？」

ギン「…あいつら今度は何をやらかしたあるか…。」

クロ「…うん。」

一方ミルクたちの乗っているのでは。

ミルクが、係員に命令をして、

観覧車の速度をあげていた。

チョコチップ「いいねえ！」

キン「OK！最高だZE！！！」

まるで、悪夢のようだった。

そして休日はあるという間に過ぎる。

動き出す

さて、今日から学校でもうすぐ夏休みに入る。
という時に限って最悪な事態が起きる。

隣の不良学校の生徒がやってきた。

甘坂姉妹全員をご指名らしい。

キン「うおっしやあああ！盛り上がるぜええ！」

ギン「何いつてるあるか！ここ学校あるよ！」

不良A「細けえこたあいんだよオ！」

クロ「何で僕まで……」

不良B「てめえの所為で副リーダーが骨折したんでえ！」

クロ「だーかーら！それは石につまずいてただけだって！」

チョコチップ「FU〜？なんだ雑魚かYO。ボスいねえのかYO。」

ボス「いるよ！」

チョコチップ「おめえちっちゃすぎるんだYOい。」

ボス「うるせえええ！そのヤツのせいでちっちゃくなったんだよ
！」

クロ「ごめん。実験に使っちゃったんだ。」

ミルク「DE？あんたら何しに来たのよ。」

フジ「そーそ。」

ボス「んなん、お前らを潰しにに決まってるだろオ！」

いつせいに掛かってくる。

結構人数はいるが、こんなのだうってことはない。

早速率先してキン、チヨコチップは大群に走って行った。

次々に人が倒れていく。

クロ「…逃げよ。」

クロは早々と逃げた。

結局喧嘩はミルク達の勝利らしい。

まあ喧嘩を吹っかけるほうが命知らずだな、と軽く感想を述べてみた。

家中、クロは相変わらずモニターを眺めていた。

”あなたの願い、叶えます”

ふふ

ふふのところに、願い事を書き込むらしい。

クロ「下らない…。」

とか言いながら、昔々に願った一生叶わない夢を書いた。

ふ神に、なりたいふ

力チっ、と送信を押す。

”あなたの願い、受け付けました”
の画面が表示された。

クロ「何やってるのかな、僕w」

笑いながら、台所へと夕食へと向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6841t/>

猫日記 = 姉妹との滅茶苦茶日常 =

2011年10月8日22時07分発行